

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第23号
平成24年12月25日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは、一人でも多くの千葉県民に、
質の高いがん治療を提供します。

看護業務の役割分担と急性期 看護補助体制加算1（25対1）

看護局長 渡辺尚子



平成24年度診療報酬改定に「急性期看護補助加算25対1」が新設で盛り込まれ、看護職の勤務負担軽減に向けて看護補助者との連携するか、制度の後押しにより明確な形で打ち出されました。がんセンターでは、現在、在院日数

12日と昨年よりさらに短縮し業務量が増加し続けており、医療安全のための確認作業、高齢化患者への療養上の世話、そして選択肢が増えたがん治療への意思決定支援、安心できる在宅支援など、短い入院期間においてかなり看護力が求められます。一方、人員確保は年々困難を極め、子育て支援制度の活用者が増加し実働の看護師確保は重要課題であります。

うまく他職種と業務分担を図り、看護師しか行えないことに効率的に取組み質向上を図るため、この診療報酬改定を追い風として、特にヘルパー資格のある看護補助者を多く採用し看護師の指示のもとで、清潔ケア、療養環境整備、患者の見守りなどを補助してもらうことにしました。採用枠を病院局経営管理課と交渉を進め、何度も募集をかけ事務局の力をいただきながら、補助者の業務手順や教育体制を整備し、急性期看護補助体制加算1と看護職員夜間配置加算について11月1日付で届出が受理されました。月に約600万の収入となり経営改善にも貢献できています。

従来の急性期看護補助加算は50対1（常時患者50人に対して看護補助者1人）でしたが、25対1では1つの病棟で1日最低4～5人の看護補助者の勤務が必要となります。看護補助者を多く採用したことで、患者のベッド回りが整理され感染防止につながっていること、清潔ケア、食事介助などを看護師と共に実施し負担軽減となっていること、また夜勤帯も勤務してもらえることでせん妄患者の見守りをお願いでき、時間外勤務となっていた看護記録に集中でき時間短縮が図れたなど大きな成果を上げています。

採用後は、定期的に看護補助者と当該師長との面談を看護局長が行い、勤務の慣れ具合など進捗を確認しながら、職場適応を推進するよう努力しているところです。今後の課題は、補助者の定着推進、継続的な教育・研修、特にチーム医療の一員として自覚を促すような教育の充実、そして働きやすい職場環境の整備（休憩室・仮眠室確保）などが挙げられます。



看護補助者の研修風景（汚物処理）

研究の現場から

全がん協生存率と 千葉県がんセンターの関わり

研究局 がん予防センター・部長 三上春夫

全国31のがん専門診療施設でつくる全国がん（成人病）センター協議会（以下「全がん協」）は、2012年10月23日、がん生存率をインターネット上で提供するシステム「KapWeb（カップウェブ）」を公開しました。この公開のあと、新聞、TV、ラジオ、雑誌、ネットの医療情報系サイト、医療機関、患者団体など幅広い分野から反響とご要望をいただいております。

この集計システムは千葉県がんセンターと歴史的なつながりがありますので、ここに記録を残しておくことといたします。開院草創期の千葉県がんセンター疫学研究部長に着任された村田紀（もとい）先生は、1980年代はじめに生存率集計ソフト「KAP（カップ）」を開発し全がん協や県内の医療機関に配布されました。当時としては新しいカプラン・マイヤー法と相対生存率を計算するソフトで、こちらも懐かしいNECのPC9801という機種で動作するものでした。

その後、千葉大学出身で村田先生の盟友でもあった岡

本直幸先生が神奈川県立がんセンターに着任され、全がん協施設のがん症例収集を開始したのが1990年代半ばのことです。さらに、村田紀先生の後を継いで現部長の三上が2000年に着任し、このシステムをウィンドウズOSに移植、「KAPWIN（カップウィン）」として全がん協施設に配布しました。続いて群馬県立がんセンター猿木信裕先生が研究班長を引き継ぎ、2007年に施設別生存率をネットに公開、大きな反響を巻き起こしました。2008年から猿木先生の後を受けて三上が研究班長をつとめており、現在の公開に連なっています。

生涯の間に国民の2人に1人ががんにかかる時代に入りました。「KapWeb」の「Kap」には千葉県がんセンターが関わって30年余、がん患者さんにごん統計を届けるという使命と歴史が継がれていることに想いをいたし、日々改良を続けてまいりたいと考えています。



KapWeb画面

病院機能評価(ver6.0)の認定が更新されました。

信頼される病院であるために、千葉県がんセンターは医療の質の向上のための取組みとして、財日本医療機能評価機構による病院機能評価（ver6.0）を受審し、認定証の更新を致しました。

有効期間：5年間 自2012年5月20日 至2017年5月19日



機能評価「認定書」

財日本医療機能評価機構は1995年に設立された第3者的な立場で病院など医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価を始めました。Ver6.0では352項目について書面と訪問審査による厳密な評価が行われ、一定の基準に達している病院にのみ認定証が交付されます。

当センターでは約1年をかけて受審のための準備を行ってきました。

中川原センター長及び、病院機能評価準備委員会の委員長である石井診療部長をはじめとして各局長、各診療部長、そして職員の皆様の御努力により認定更新はなされました。

皆様の御努力で勝ち取った認定表は、センター長室前ラウンジ、外来フロントなど院内各所に掲示しておりますので、皆様も是非御覧下さい。

なお、2012年11月2日の時点で同機構により認定された病院は、全国で2414施設となっております。

事務局 医事経営課 岡田寛治

研究の現場から

日本小児血液・がん学会 第2回小児血液・がん学会学術賞を受賞

研究局 発がん制御研究部 竹信 尚典

発

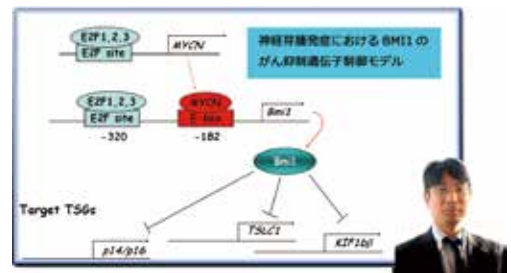
がん制御研究部は上條部長のもと、2008年に旧生化学研究部から発がんメカニズムの解明を目的に発足しました。なかでも最も力を入れている研究は、がん幹細胞に対する新しい治療法の開発です。がん幹細胞とは、近年注目されている発がんに関わる新しい考え方です。がんの中には少数のがん幹細胞が存在し、そのがん幹細胞が治療後も生き残り、がんの再発や転移の原因となると考えられています。したがって、そのがん幹細胞を取り除く治療法を開発することによって、患者さんに少ない負担でより高い治療効果が得られることが期待されています。

小児血液がん学会は2つの学会が2011年から合併し、子供のがんの治療成果を向上させるために運営されている学会です。小児血液・がん学会の学術賞は、前年1年間に発表された数ある小児がんに関する論文から学術的に優れた論文を数本選び、贈られる賞です。今回は我々が2011年に発表した、神経芽腫におけるがん幹細胞関連遺伝子 CD133 の機能に関する論文が、数ある論文の中から選ばれました。なお昨年度は、現千葉大学医学部小児科の助教である落合秀匡君が当研究室で行った研究、がん幹細胞関連遺伝子 BMI1 の神経芽腫での制御機構の論文が選ばれ、当研究室が2年連続受賞という快挙となりました。

これらの研究成果は、当センターにおける中川原章センター長を中心とした長年にわたる神経芽腫の遺伝子解

析等に関する知見にもとづくものです。またこれらを含むすべての研究成果は、千葉県がんセンターおよび千葉県の皆様、小児がん関連施設など、たくさんの方々のご協力によって成し得たものであり、この機会をお借りして深謝いたします。

発がん制御研究部では、今後がん幹細胞をはじめとした発がんのメカニズムの理解と、新しい治療につながるシーズ探索から臨床と直結したトランスレーショナルリサーチまで、難治性がんの克服に向けた研究を行なって行きたいと考えております。



第1回小児血液・がん学会学術賞の研究概要(落合)



第2回小児血液・がん学会学術賞の研究概要(竹信)



第54回日本小児血液・がん学会にて。左から落合、上條部長、竹信

国際小児がん学会

シュワイズグース賞受賞講演を終えて



先日、私は国際小児がん学会 (International Society of Paediatric Oncology, SIOP) の第44回年次集会に参加するため、ロンドンに行っていました。学会2日目にシュワイズグース賞の受賞記念講演を行いました。事前に研究室の皆様から微に入り細を穿つご指導をいただいたおかげで、無事に講演を終えることができました。講演後に、学会に参加されている聴衆の方々からいただいた暖かい拍手は、今でも印象に残っております。この学会は特に小児がんの分野に携わるプロフェッショナルが一堂に会する学会であることから、医師・研究者のみならず様々な職種の方々にとって最新の情報が得られる良い機会だと思います。次回は、2013年9月に香港で開催されます。

研究局 小児がん研究センター 高取 敦志

平成24年度 県民公開セミナー報告

今年で11回目を迎えた県民公開セミナーは平成24年10月21日(日)に京葉銀行文化プラザで開催されました。

今年は、「抗がん剤治療の今日と明日」をテーマに、須藤先生が「切除不能腫瘍に対する最新の治療戦略」、熊谷先生が「悪性リンパ腫の抗がん剤治療」、CRCの比企さんが「臨床試験・治験とコーディネーターの関わり」、グループネクサス理事長の天野さんが「ドラッグラグについて」、患者相談室の中村さんが「がん情報について」の講演を行いました。その後、秋月先生を司会として総合討論を行い、



会場からの様々な質問にお答えを致しました。また、会場ロビーでは患者さんの団体によるがん医療関係の展示も行われました。

当日は天候にも恵まれ251名の方にご参加頂き、皆様熱心に講演を聞いておられました。来場者から寄せられたアンケートには、お褒めの言葉もありましたが、率直なご意見も多く、今後のセミナーのあり方やセンターの広報・運営に貴重なコメントとなりました。

「新しい基本理念」

約6年ぶりに、千葉県がんセンターの基本理念、基本方針を改訂し、平成24年10月1日から、これらの新しい基本理念・方針に切り替えました。

新基本理念：「心と体にやさしく、希望の持てるがん医療」

基本理念は、従来の「心と体にやさしいがん医療」から、「心と体にやさしく、希望の持てるがん医療」とし、医療者の立場に、患者さん・ご家族の立場を加味しました。

また、新たに「コアバリュー」を設定しました。

コアバリュー：「安全」 (Safety)
「和」 (Integrity)
「心」 (Caring)
「技」 (Art)
「創」 (Innovation)

基本方針には、「私たちは、——」を加えました。

新基本方針：

1. 私たちは、患者さんの権利と利益を追求し、自立性を尊重します。
2. 私たちは、チームで安全な医療を提供します。
3. 私たちは、地域と連携し、切れ目のないがん医療を提供します。
4. 私たちは、がん研究を推進し、患者さん一人ひとりに合った最適な医療を実践します。
5. 私たちは、思いやりの心をもつ自律した医療人を育成します。

千葉県がんセンターは新しい時代へ向かって、気持ちを新たに前進していきます。

事務局 医事経営課 丸 新



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス：誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

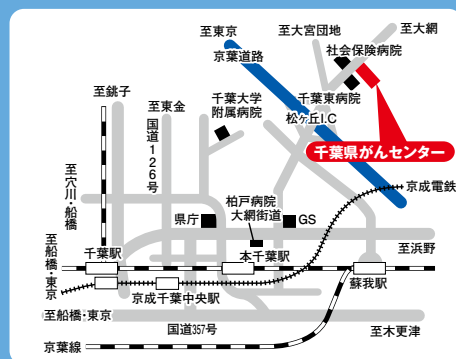
千葉中央バス：千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス：鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.chiba-cc.jp/>